

7 情報・コミュニケーション

(1) <入所・入院問24><在宅問33> 情報を入手する手段

問. 職場や家庭、地域社会などにおいて、どのようにして情報を得ていますか。
あてはまるものすべてに○をしてください。

【概要】

入所・入院している人では、「テレビ」が74.6%で最も多く、次いで「入所している施設・病院の掲示板、印刷物など」(49.2%)、「新聞」(36.7%)、「家族」(34.9%)などの順となっている。

在宅の人では、「テレビ」が81.7%で最も多く、次いで「新聞」(58.6%)、「広報(市町村・県等の発行物)」(51.8%)、「家族」(44.4%)、「友人・知人」(39.3%)などの順となっている。

(図表7-1-1)

【障害者手帳種別】

すべての障害種別において入院・在宅とも「テレビ」が最も多いが、そのほか、身体障害(在宅)では「新聞」(66.9%)、「広報」(61.7%)が、知的障害(在宅)では「家族」(43.0%)が多い。精神障害では入院、在宅とも新聞(入院63.9%、在宅57.9%)が多い。(図表7-1-3)

【年代・加齢】

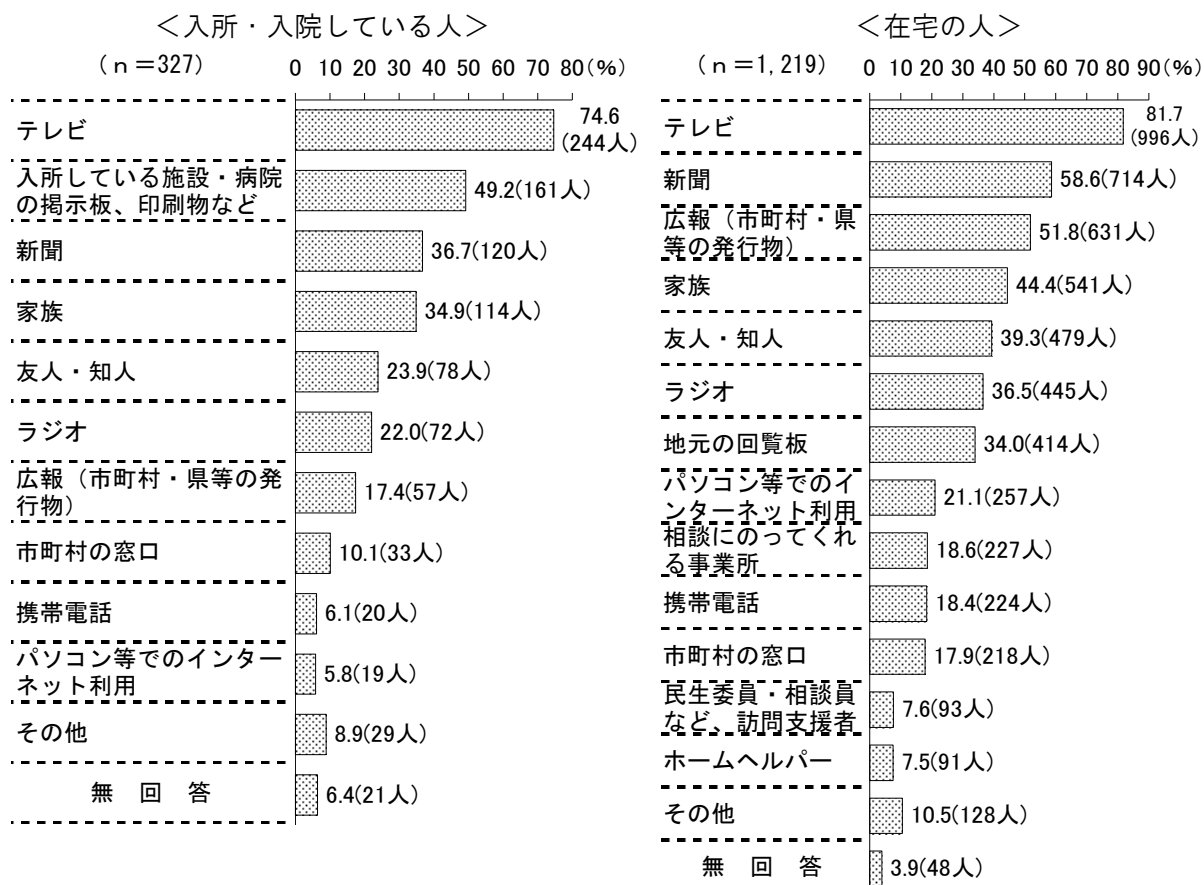
年代が進むにつれ、入院では「テレビ」、「新聞」が、在宅では「新聞」、「広報」、「ラジオ」、「地元の回覧板」の割合が高くなっている。(図表7-1-2)

【その他】

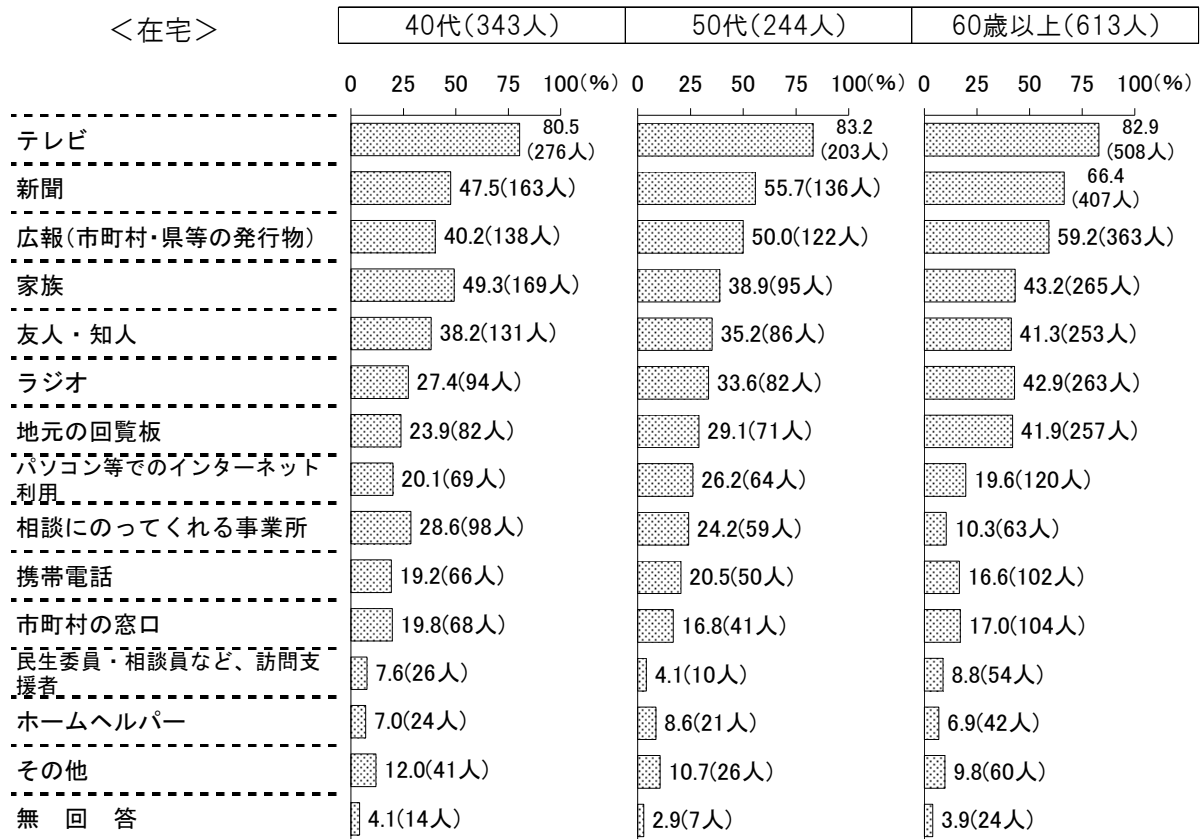
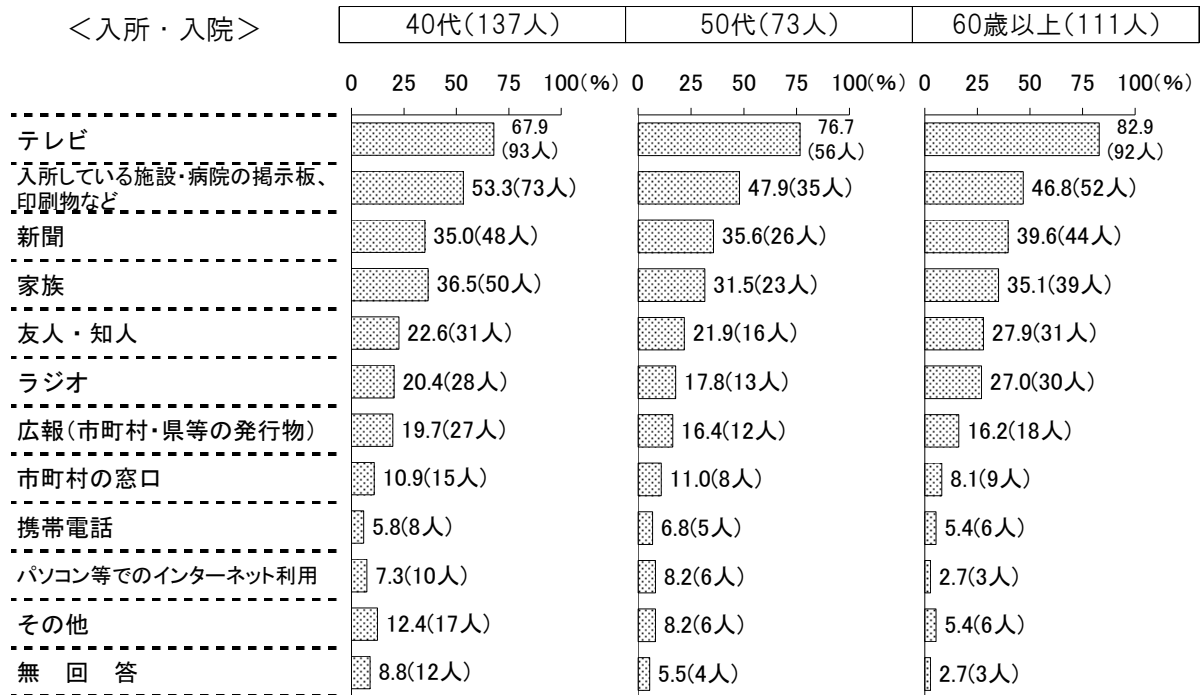
在宅の身体障害では、他の種別と比べて「ラジオ」(65.9%)の割合が高い。(図表7-1-4)

ひとり暮らしは、他の家族形態と比べて「ホームヘルパー」(23.6%)、「民生委員・相談員などの訪問支援者」(17.4%)の割合が高くなっている。(図表7-1-6)

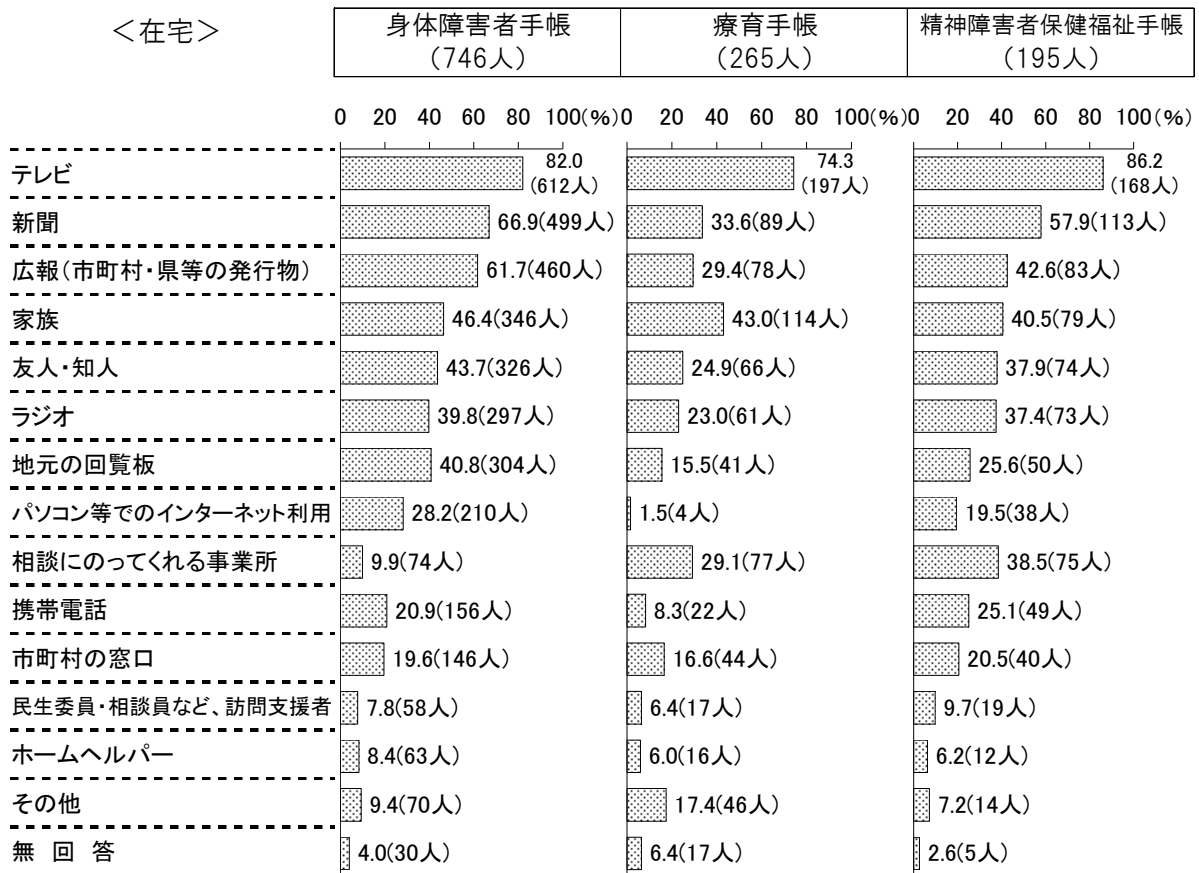
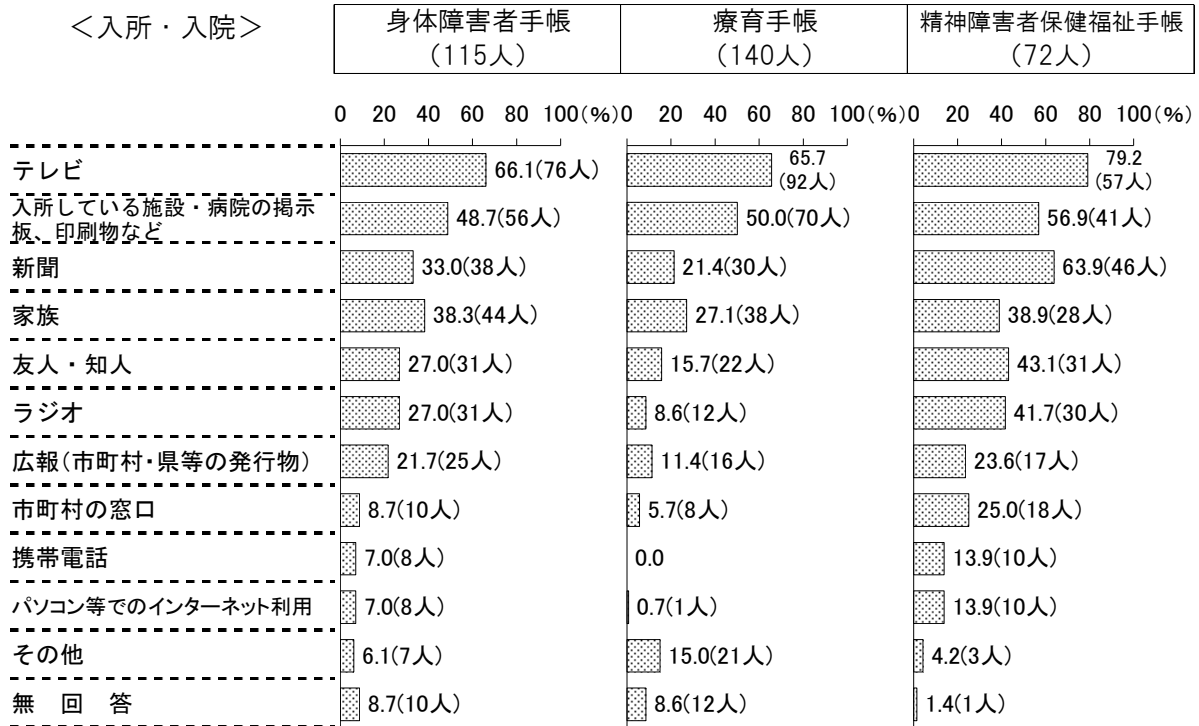
図表7-1-1



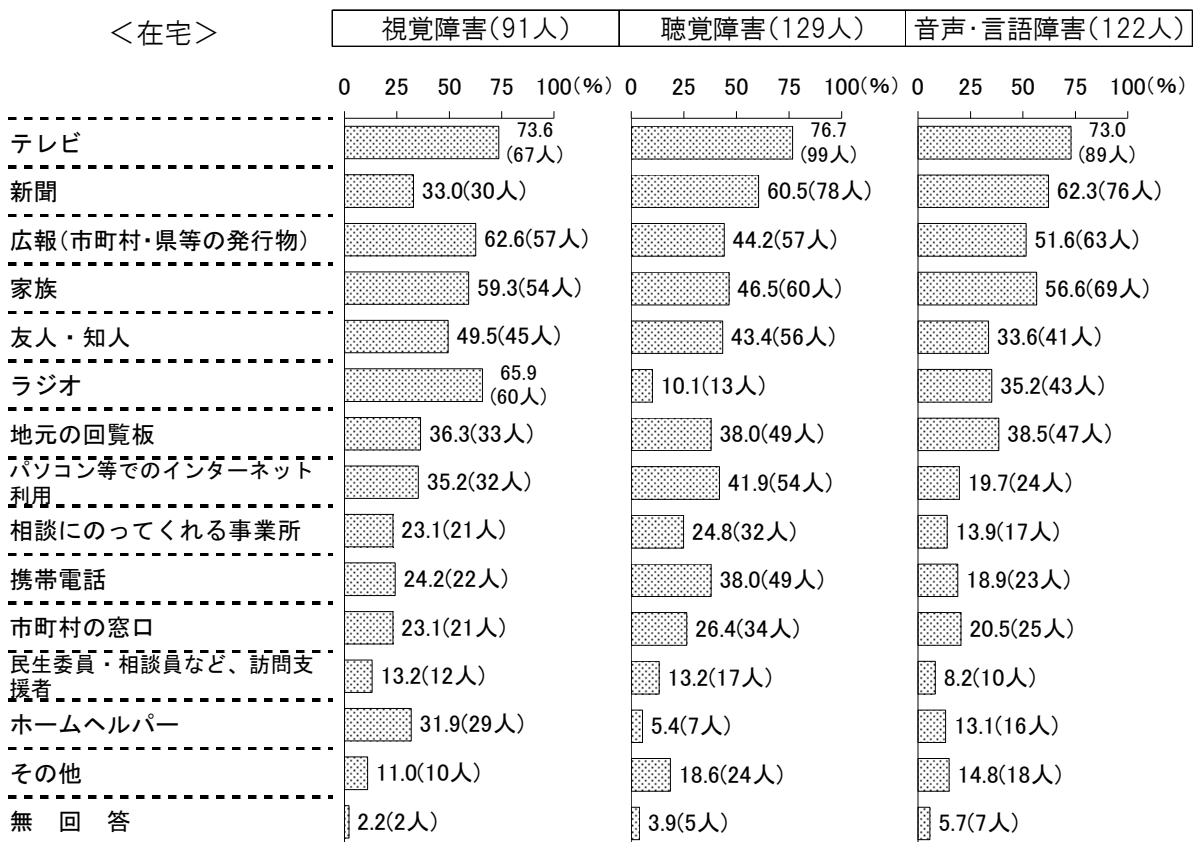
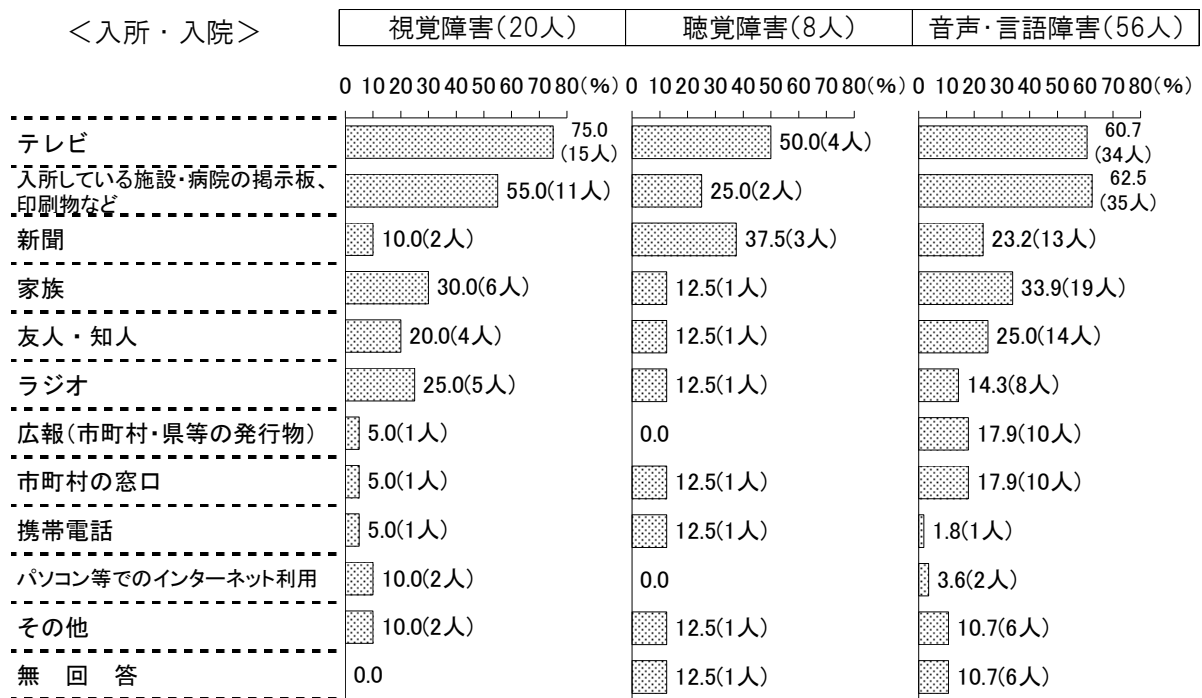
図表 7-1-2 情報を入手する手段—年代別



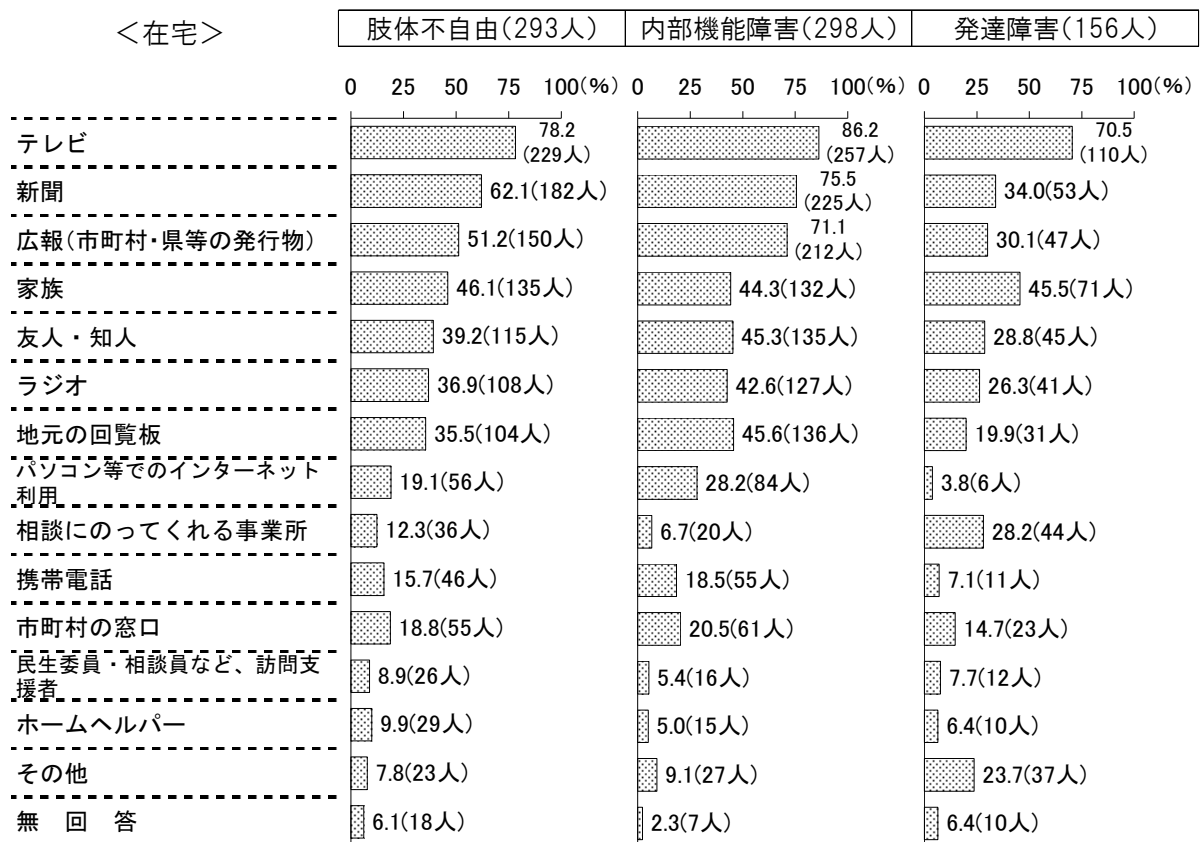
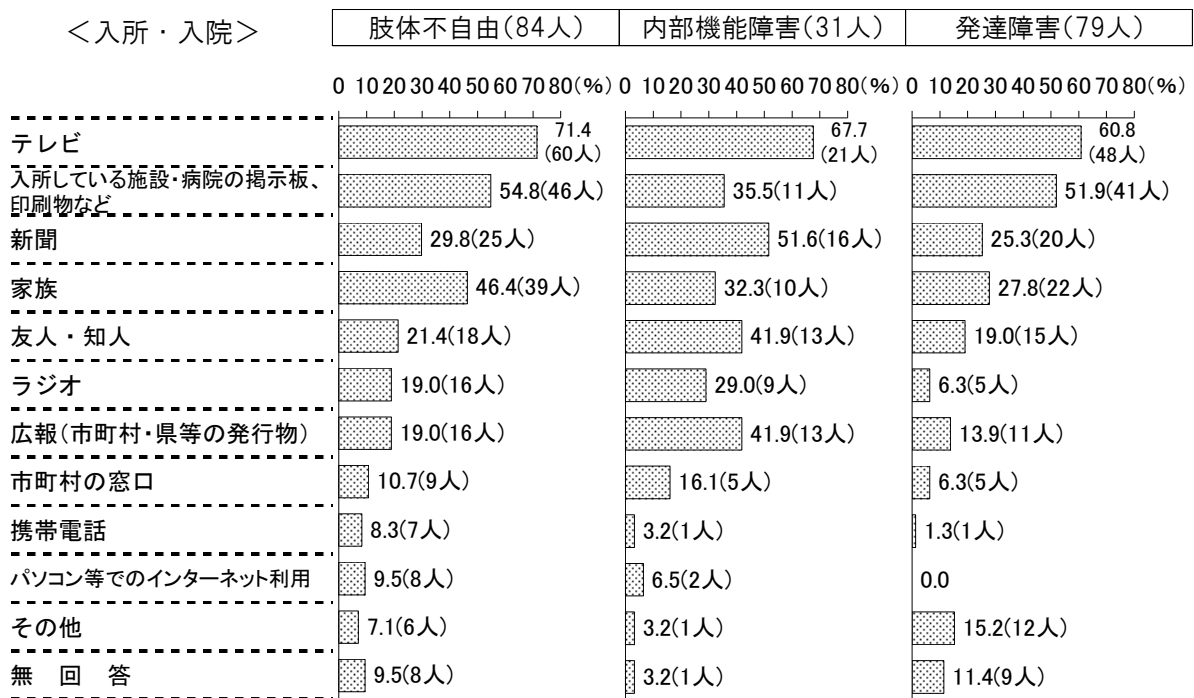
図表 7-1-3 情報を入手する手段—障害者手帳種別



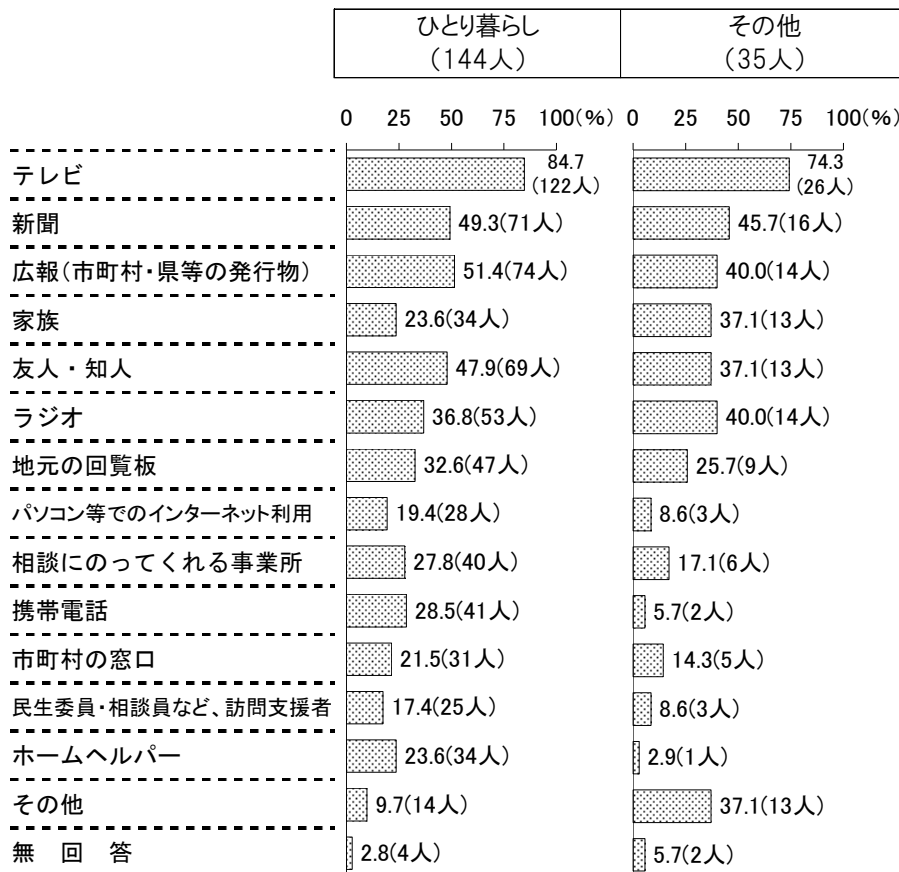
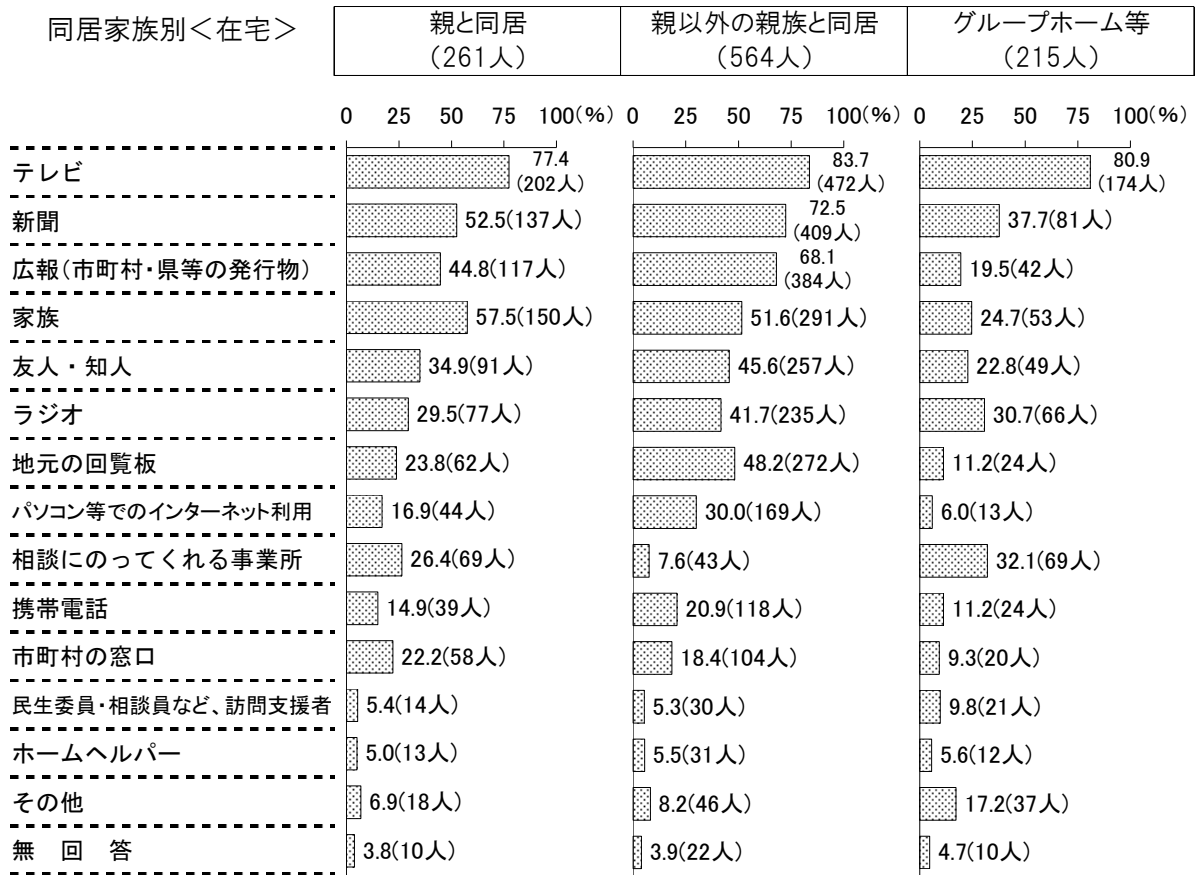
図表 7-1-4 情報を入手する手段—障害種別（視覚障害、聴覚障害、音声・言語障害）



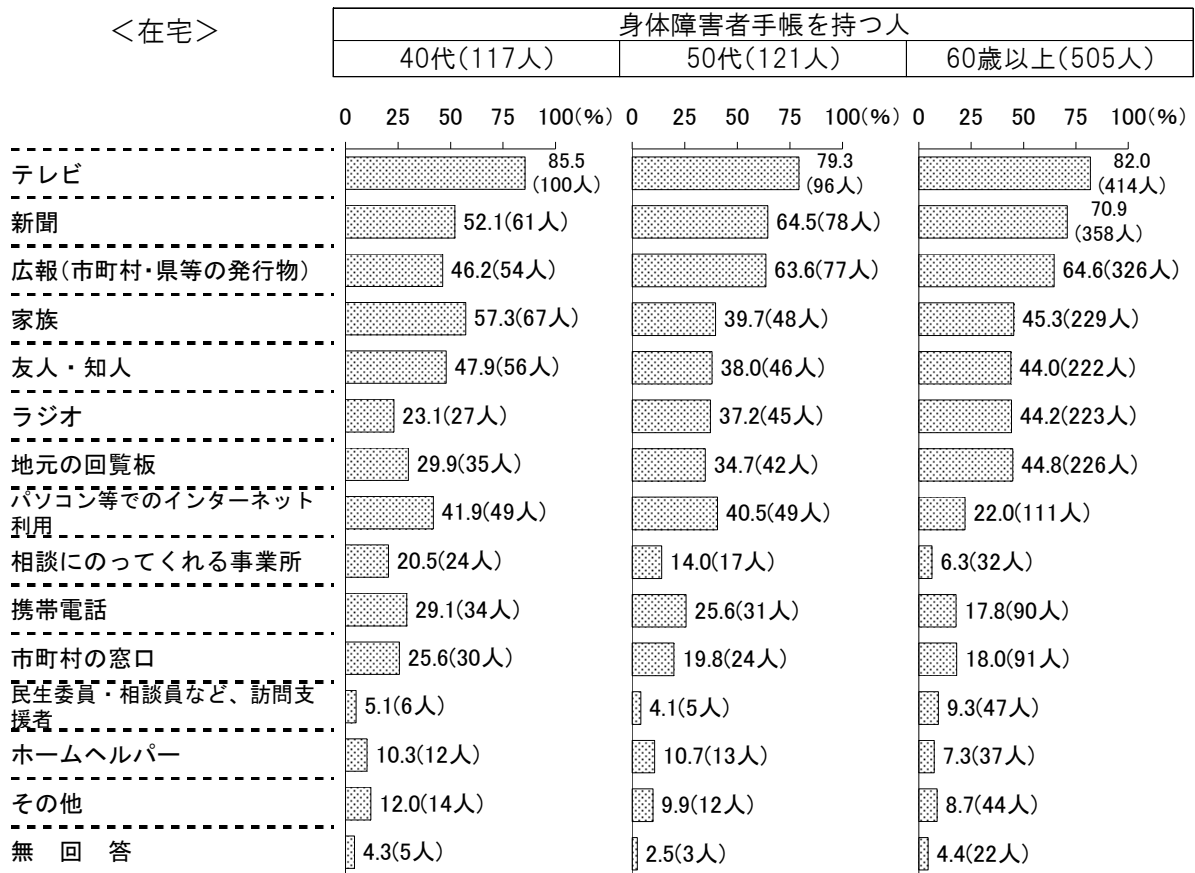
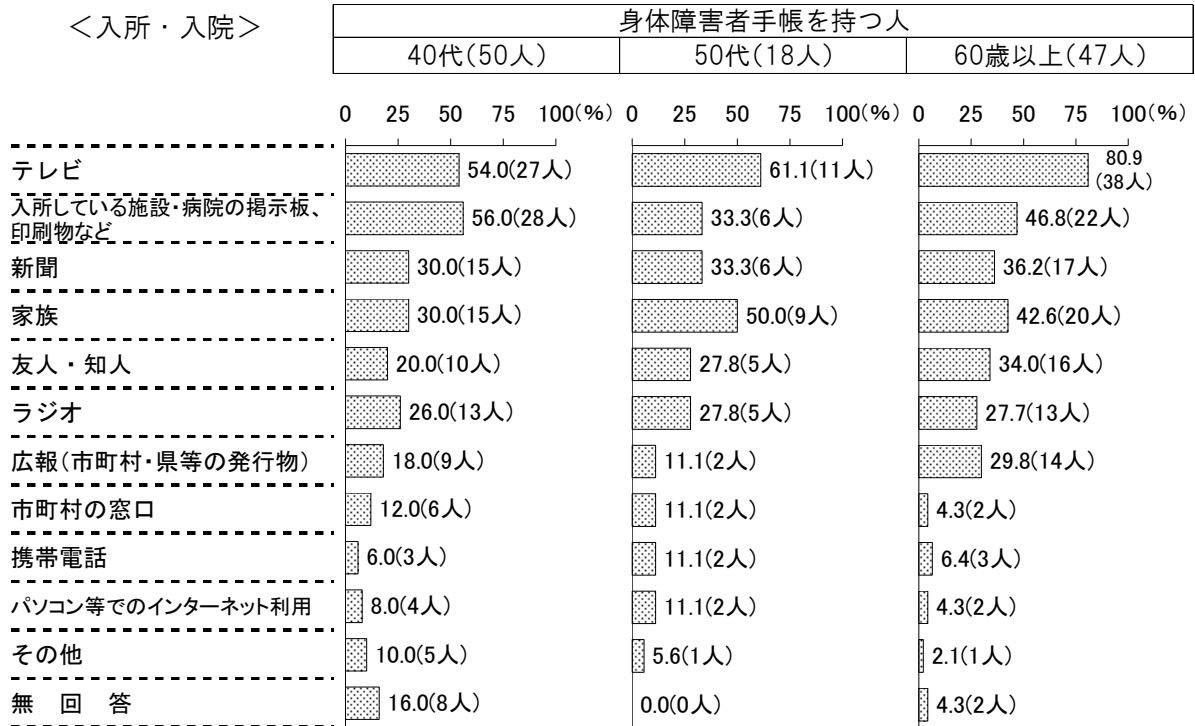
図表7-1-5 情報を入手する手段—障害種別（肢体不自由、内部機能障害、発達障害）



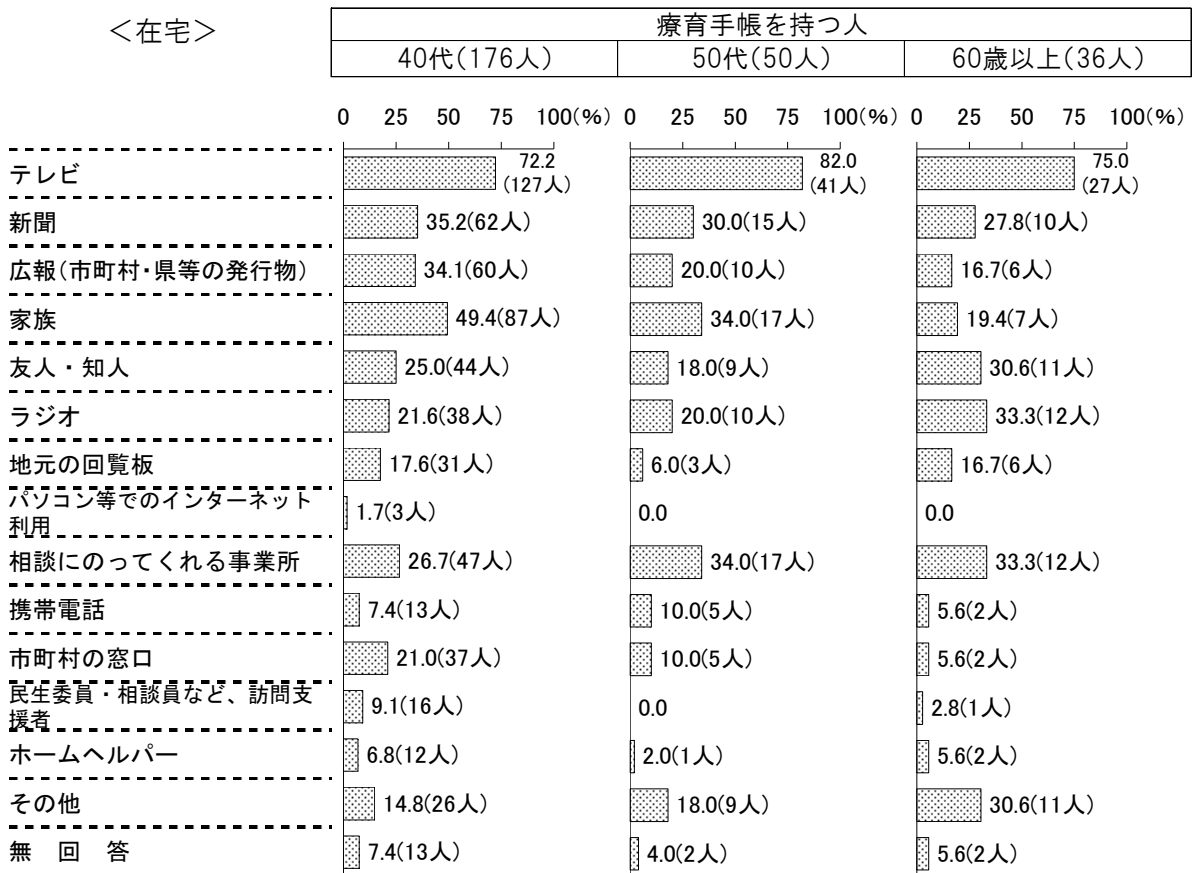
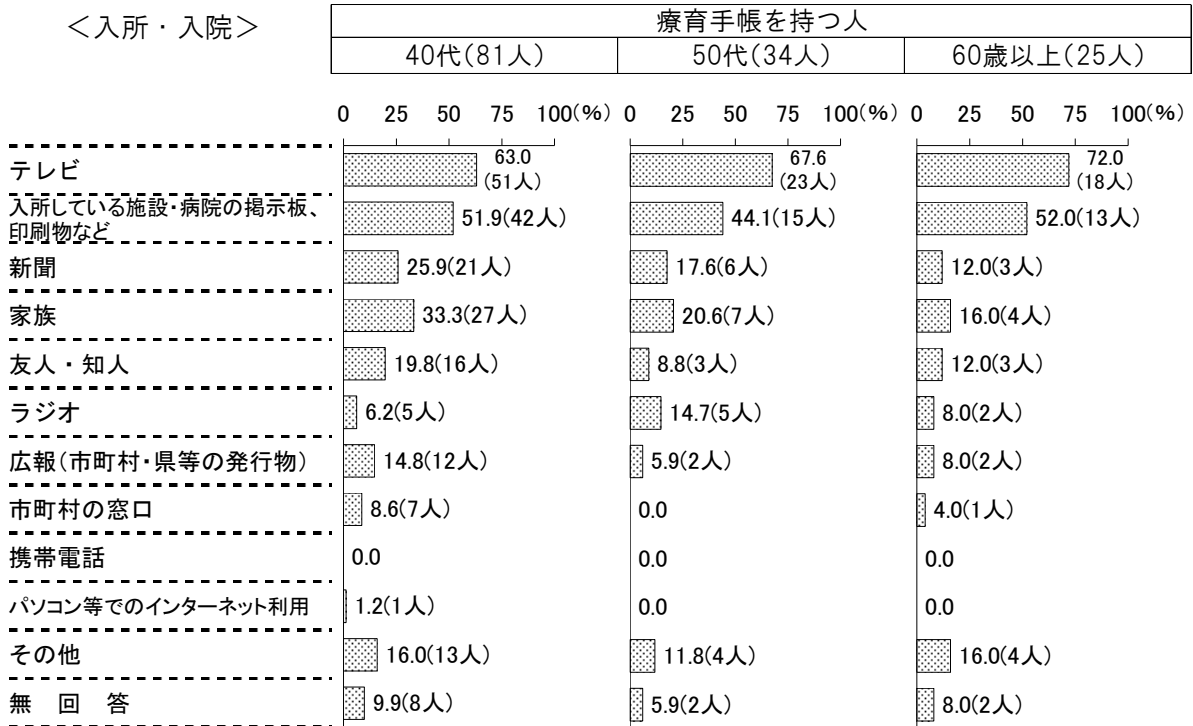
図表 7-1-6 情報入手する手段—同居家族別<在宅>



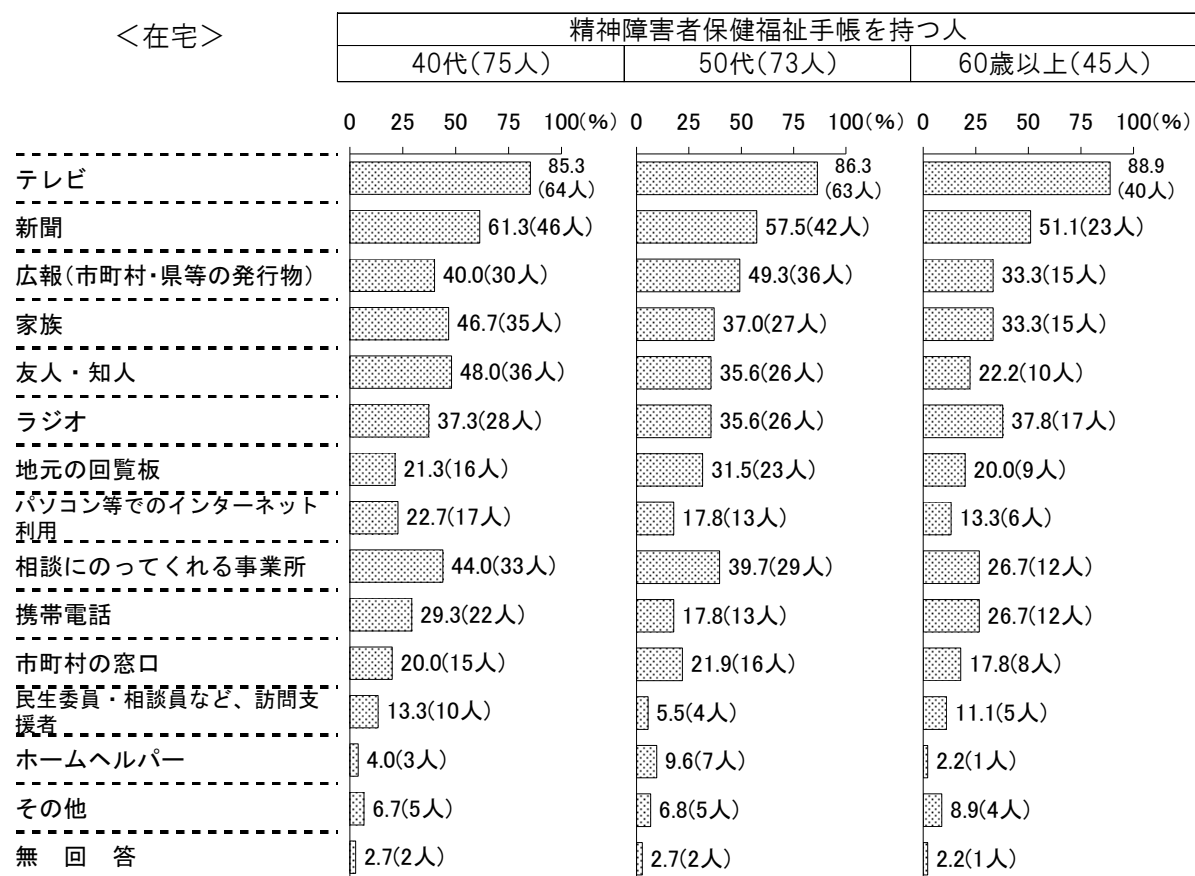
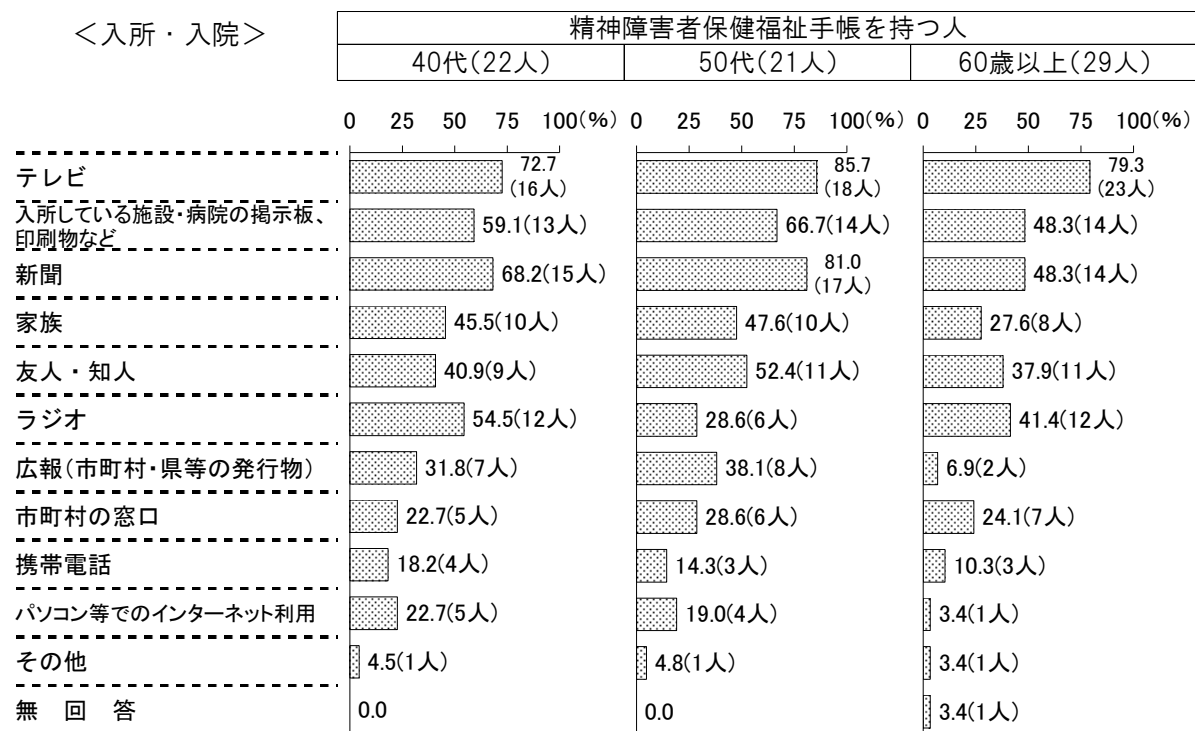
図表7-1-7 情報を入手する手段－障害者手帳種別・年代別（身体障害者手帳）



図表 7-1-8 情報入手する手段—障害者手帳種別・年代別（療育手帳）



図表 7-1-9 情報入手する手段—障害者手帳種別・年代別（精神障害者保健福祉手帳）



(2) <入所・入院問25><在宅問34> 情報の取得、伝達をするうえで困ること

問. 情報の取得、伝達をするうえで困ることがありますか。

あてはまるものすべてに○をしてください。

【概要】

入所・入院している人では、「初めて行くところでは、どのようにして行けばよいか迷う。」が29.1%で最も多く、次いで「まわりの人との意思疎通が不十分なため、人間関係がうまくいかない。」(24.5%)、「メール、インターネットの使い方が良く分からない、使えない、部屋に置けない」(22.9%)などの順となっている。「特に困らない」は30.3%である。

在宅の人では、「初めて行くところでは、どのようにして行けばよいか迷う。」が26.0%で最も多く、次いで「メール、インターネットの使い方が良く分からない、使えない」(22.4%)、「まわりの人との意思疎通が不十分なため、人間関係がうまくいかない。」(20.0%)などの順となっている。「特に困らない」は39.5%である。(図表7-2-1)

【障害者手帳種別】

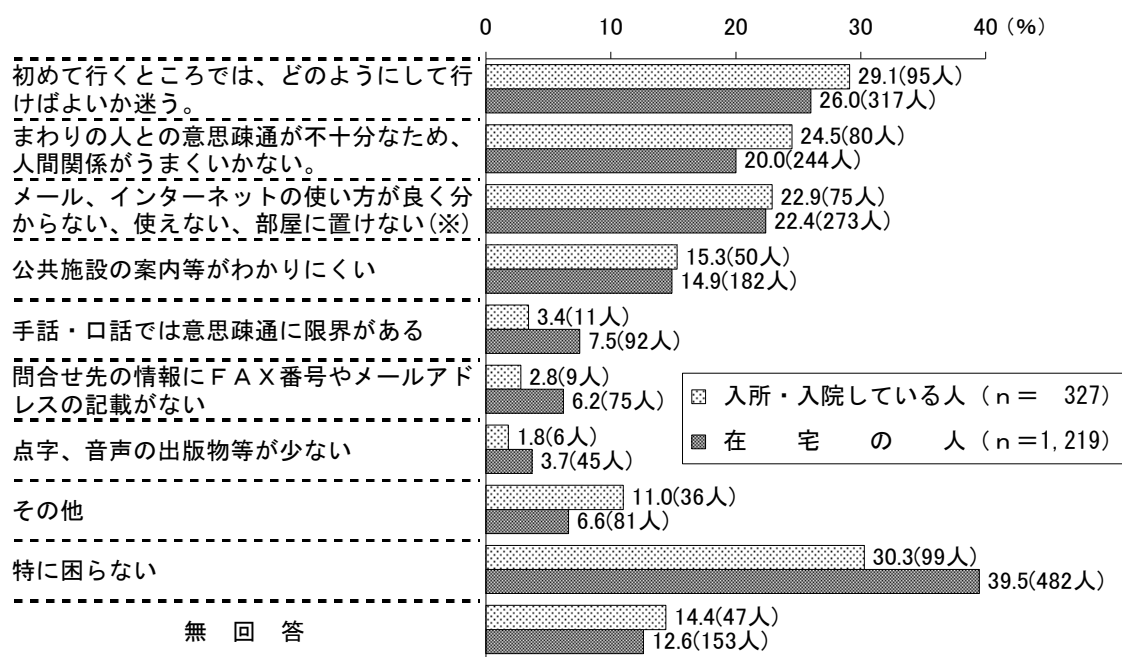
知的障害では、「まわりの人との意思疎通が不十分なため、人間関係がうまくいかない」(入所31.4%、在宅36.6%)、「初めて行くところでは、どのようにして行けばよいか迷う」(入所25.7%、在宅40.4%)が多くなっている。精神障害では、「初めて行くところでは、どのようにして行けばよいか迷う」(入所38.9%、在宅40.5%)、「メール、インターネットの使い方が良く分からない、使えない、部屋に置けない」(入所31.9%、在宅34.9%)が多くなっている。(図表7-2-3)

【年代・加齢】

年代が進むにつれ、在宅の身体障害で「特に困らない」の割合が高くなり、在宅の精神障害で「メール、インターネットの使い方が良く分からない、使えない」が高くなっている。

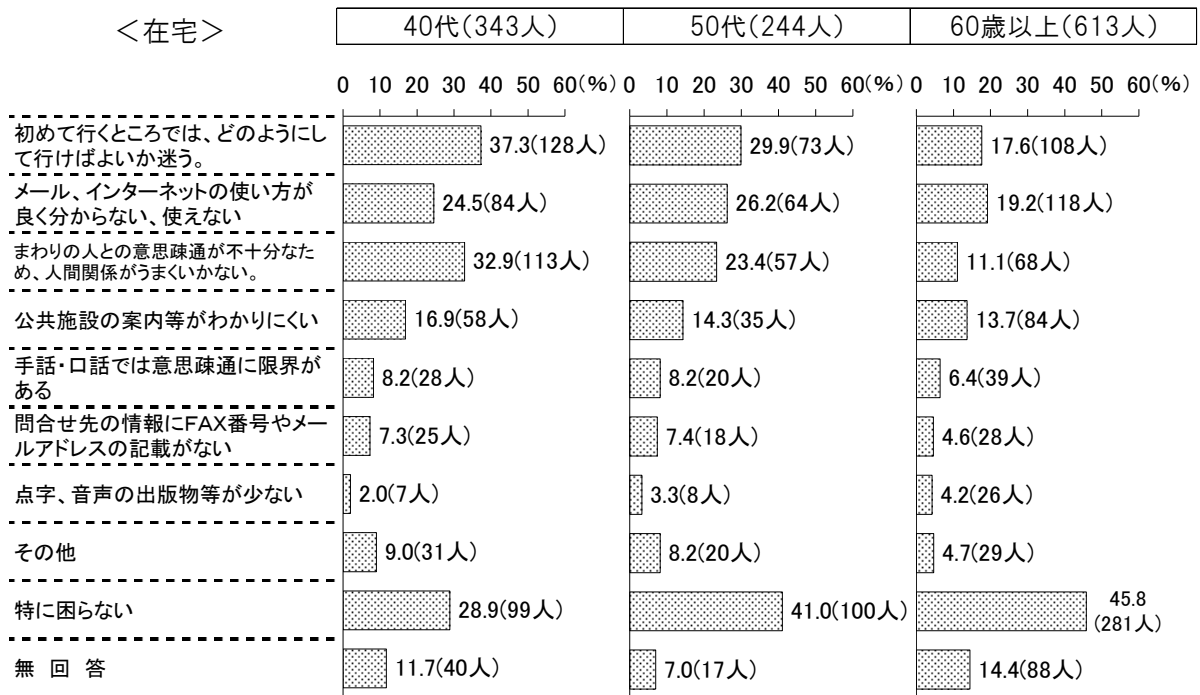
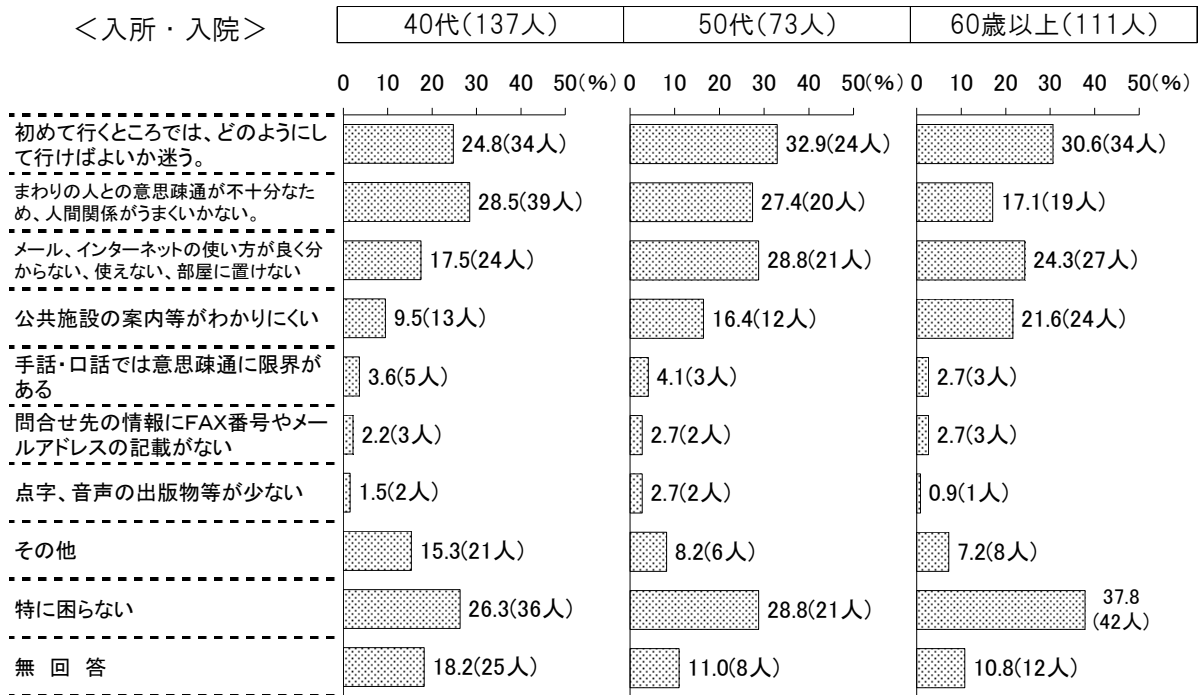
(図表7-2-7～図表7-2-9)

図表7-2-1

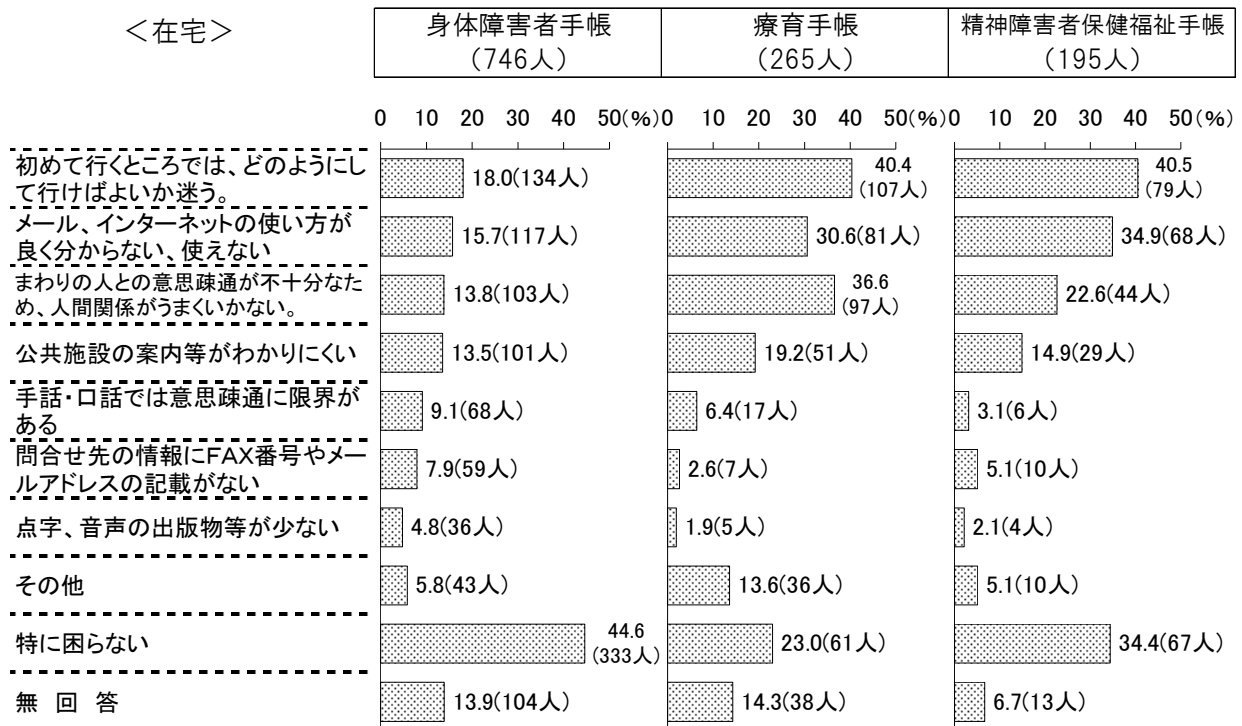
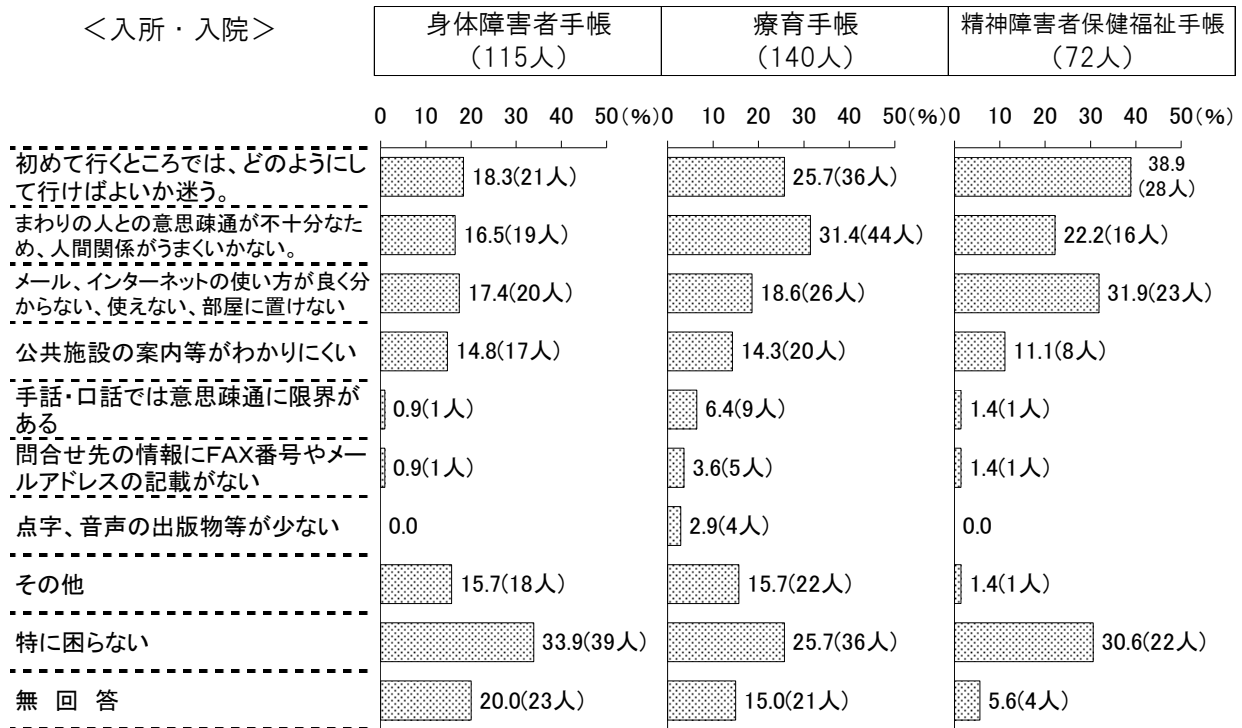


(※) 在宅の人に対しては、「メール、インターネットの使い方が良く分からない、使えない」としていた。

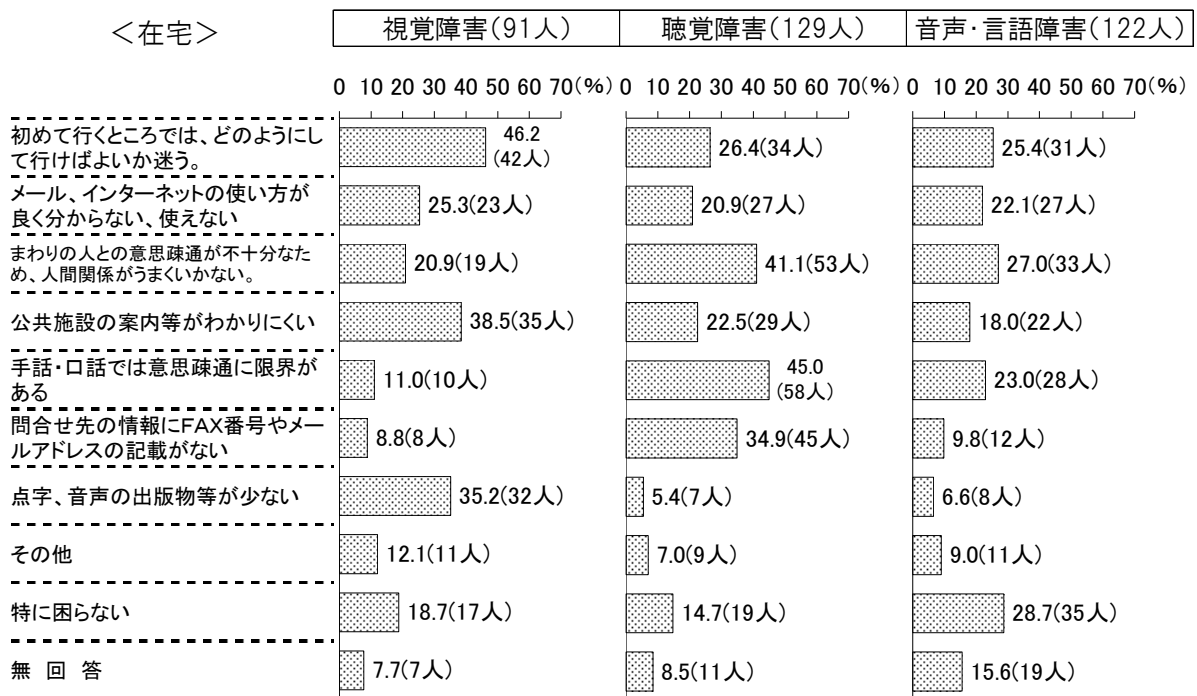
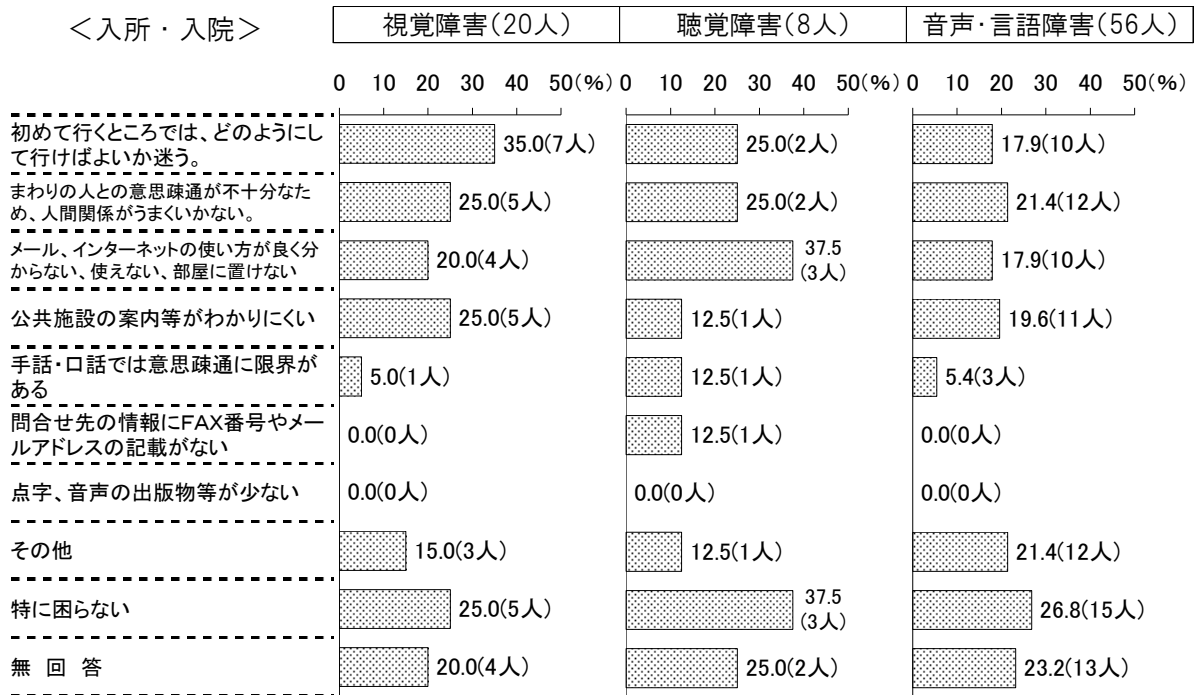
図表7-2-2 情報の取得、伝達をするうえで困ること一年代別



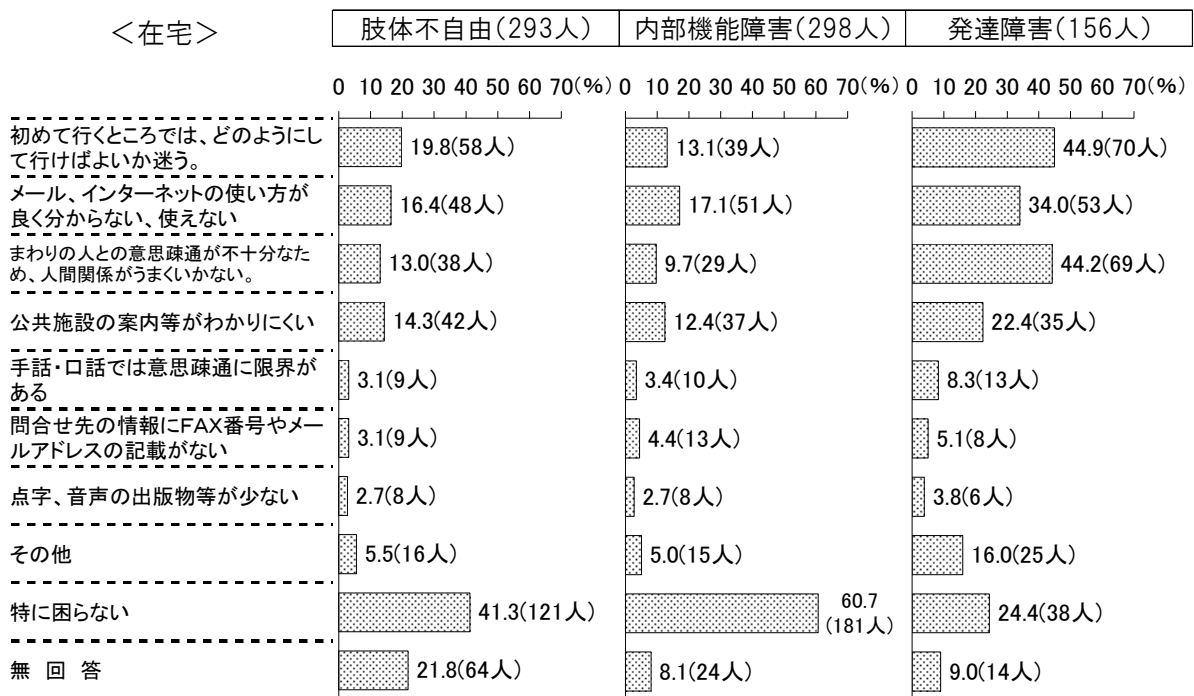
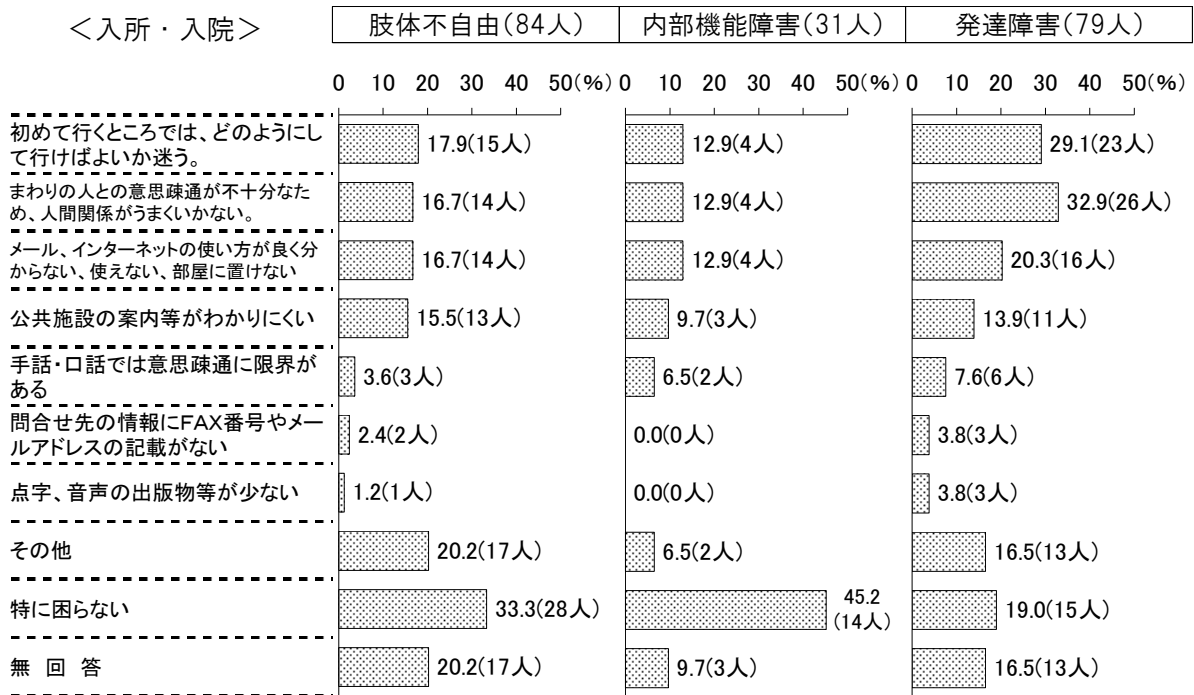
図表 7-2-3 情報の取得、伝達をするうえで困ること—障害者手帳種別



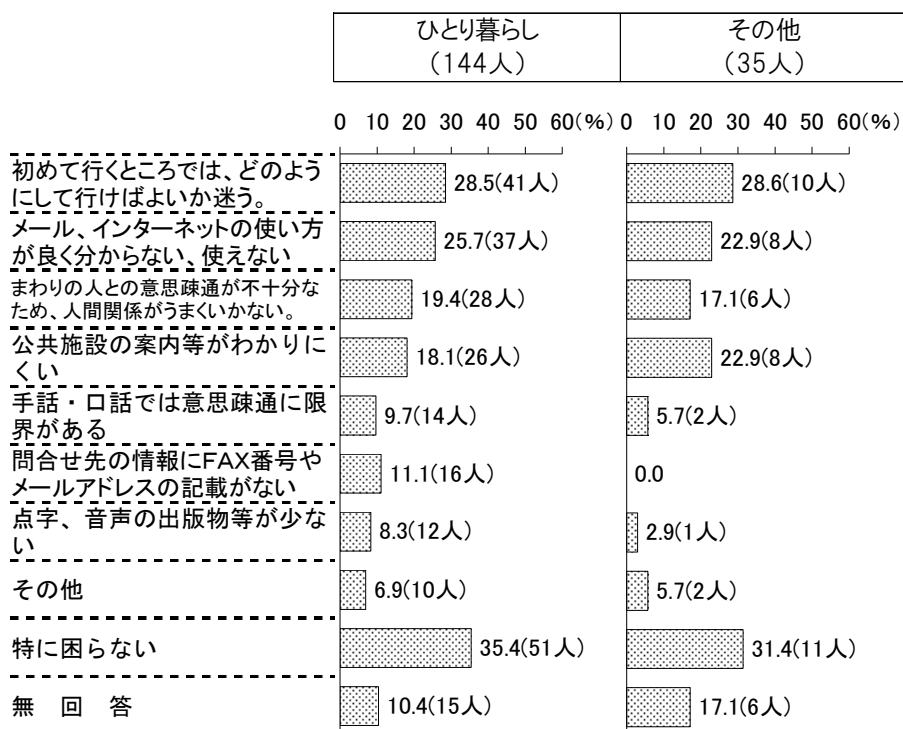
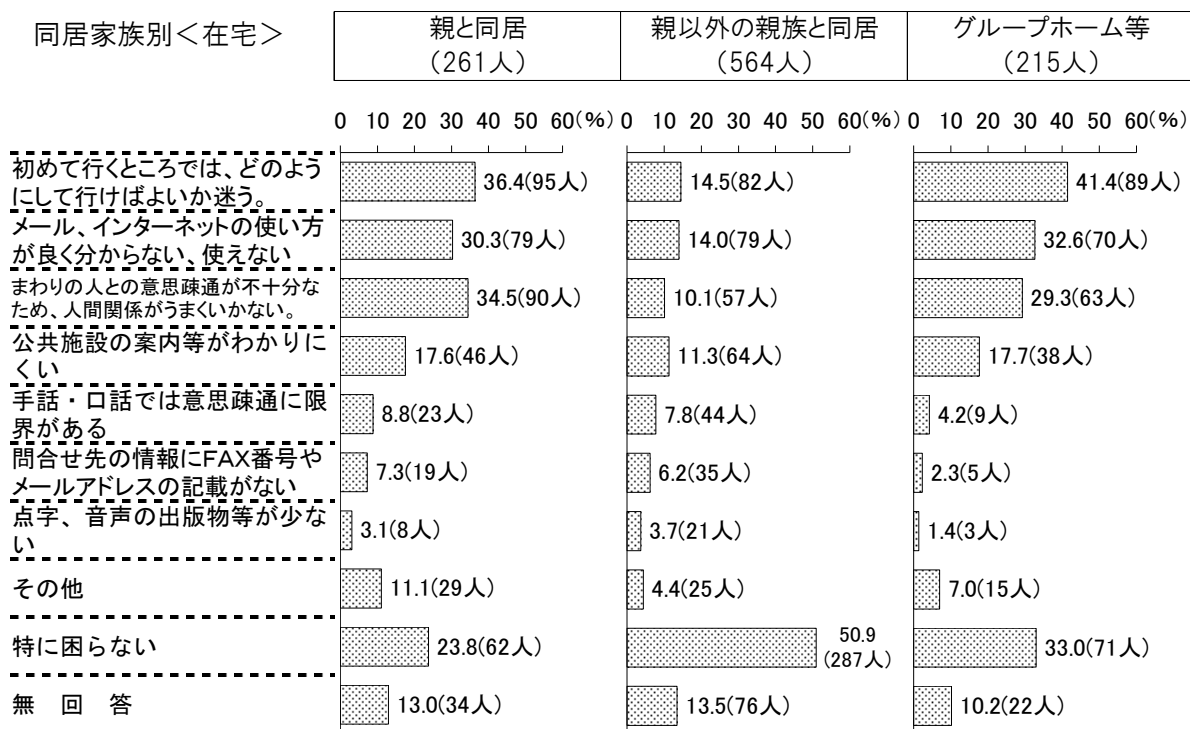
図表 7-2-4 情報の取得、伝達をするうえで困ること―障害種別（視覚障害、聴覚障害、音声・言語障害）



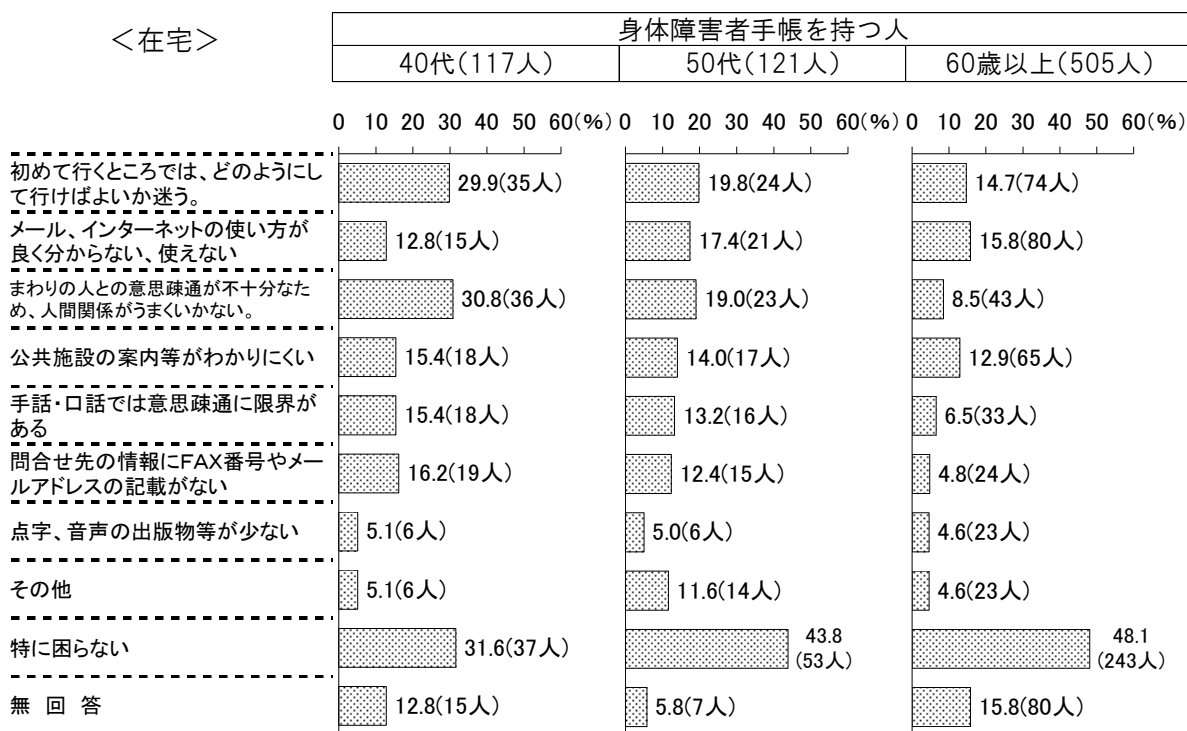
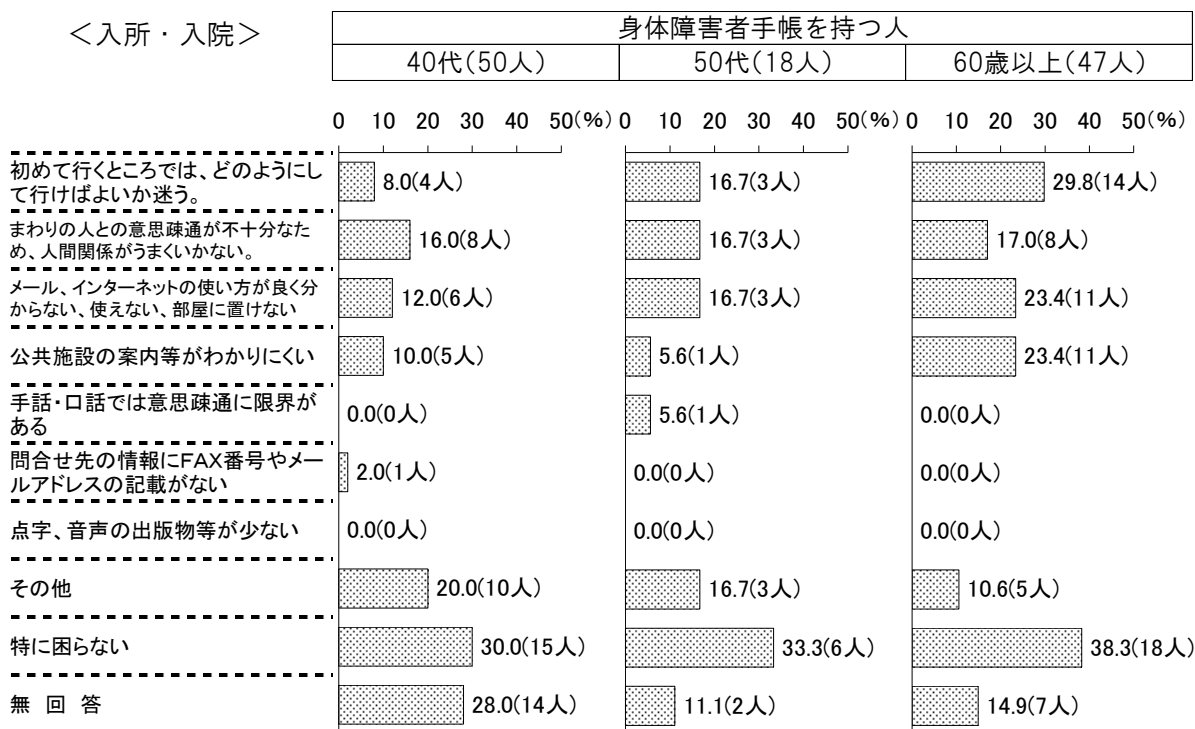
図表 7-2-5 情報の取得、伝達をするうえで困ること―障害種別(肢体不自由、内部機能障害、発達障害)



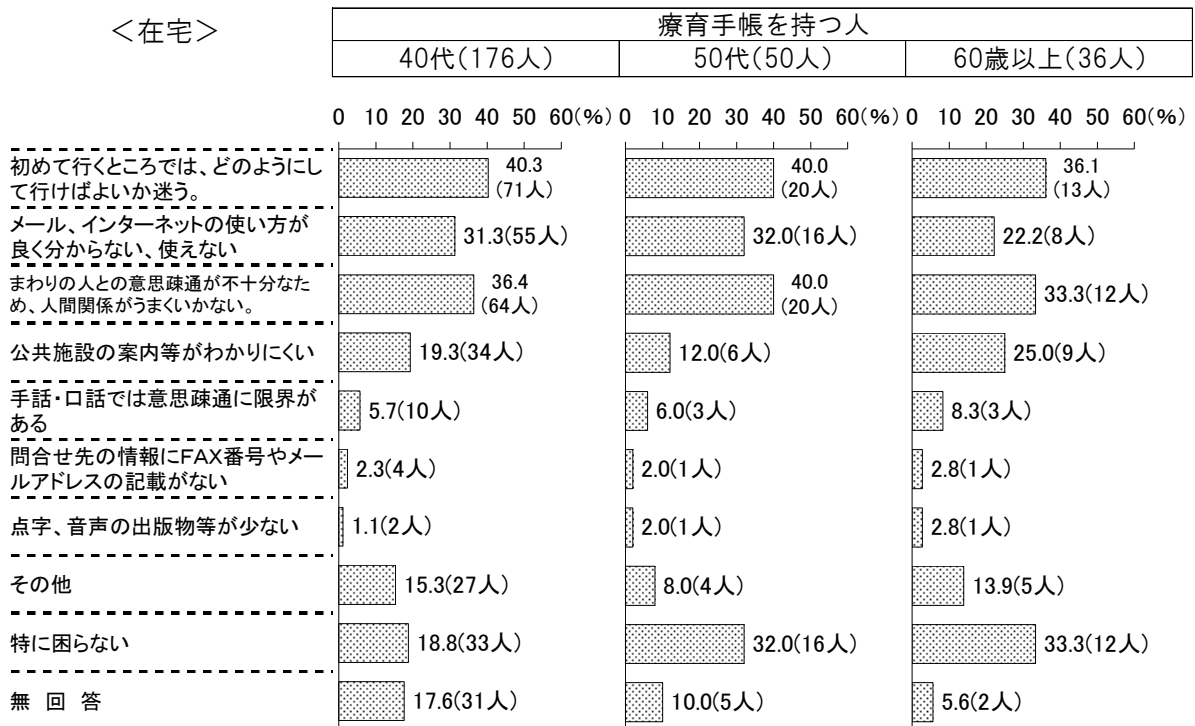
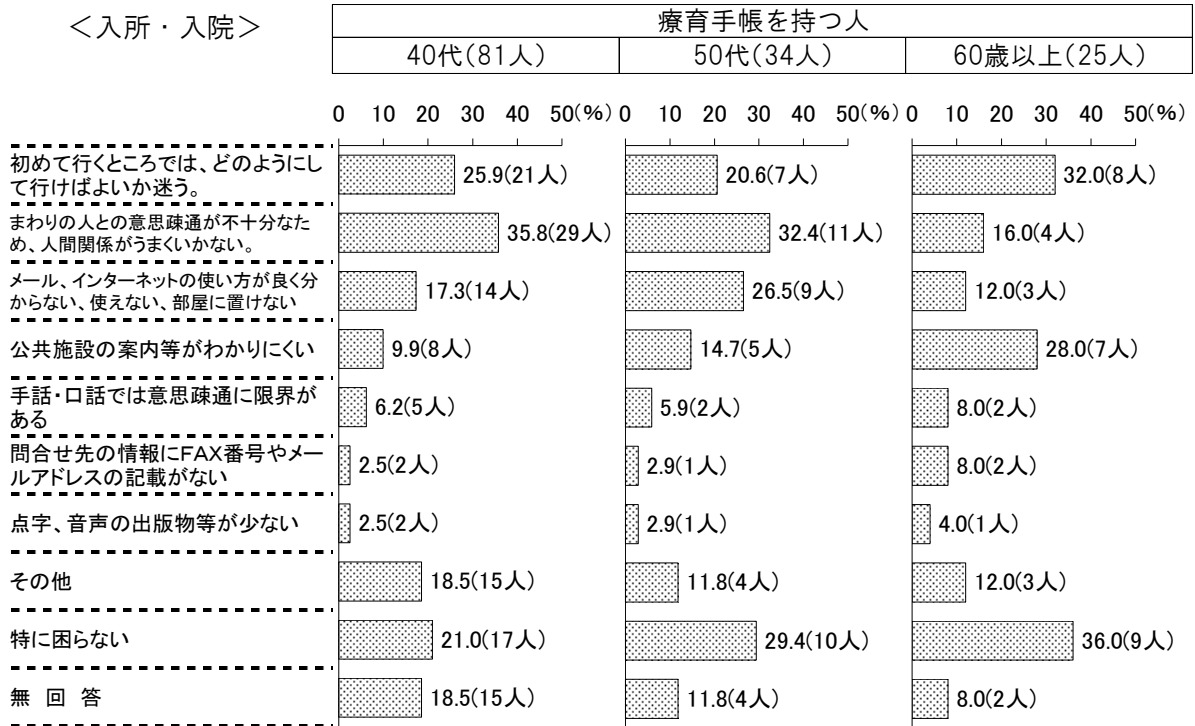
図表 7-2-6 情報の取得、伝達をするうえで困ること一同居家族別<在宅>



図表7-2-7 情報の取得、伝達をするうえで困ること―障害者手帳種別・年代別(身体障害者手帳)



図表 7-2-8 情報の取得、伝達をするうえで困ること—障害者手帳種別・年代別（療育手帳）



図表 7-2-9 情報の取得、伝達をするうえで困ること

— 障害者手帳種別・年代別（精神障害者保健福祉手帳）

